

## 特集

# 立命館大学文学部教育の現在

— 教育目標、編成・運営方針、進路、将来構想 —

松 本 保 宣

### 要 旨

文学部では、人材育成目的を定め、それに相応する6項目の教育研究上の目的を制定し、HP上などで公開してきた。また、並行してアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3ポリシーを定め、これもHP・『履修要項』などで公開している。以上の目的・方針については、そのたゆみ無き内実化が要請される。文学部は、学士力の保証として卒業論文を必修化しており、それをゴールとして1回生から4回生にいたるまで一貫して小集団教育のゼミナールを設けている。学生に対するアンケートからもゼミ教育に対する高い評価が窺え、これまでの文学部教育の成果といえる。今後の課題として大学のユニバーサル化等の社会情勢に対応する為に、2012年度の学域制導入に伴う初年次教育の一層の充実と、国際化の推進が挙げられよう。

### キーワード

人材育成目的、教育研究上の目的、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、小集団教育、初年次教育、学域制、リテラシー入門、キャリア教育、国際化

### はじめに

2010年以来、文学部は「学士力の質保証」を求める学外情勢を踏まえた学内の要請に基づき、ポリシーの策定とその公開を実施してきた。また、そのポリシーに基づき授業の運営方針を立て、学生の進路開拓にもあたって来た。こうした文学部の現況の概要をまとめるとともに、将来計画の構想について述べたい。

### 一 学部教育の教育目標

本学では、学部・研究科における人材育成目的、教育目標の明確化とこれに基づく教学改善に取り組んできた。文学部もこうした全学方針に基づき、以下の人材育成目的を定め、それを文学部のHPに公開している<sup>1)</sup>。

「文学部は、人文学を教育研究し、人間や世界のさまざまな文化について、幅広い知識と豊かな表現力を身につけ、人間と社会が抱える問題を解決しようとする人間を育成することを目的と

する。」

また、次の 6 項目の教育研究上の目的を定めた。

- ①人間や世界の様々な文化について幅広い知識を身につけ、人文学の方法論を用いて理解をすることができる（知識・理解）
- ②現代・過去の社会や文化に対して多面的な関心を持ち、自らの見解を形成できる（思考・判断）
- ③個人や文化の多様性を認め、社会の一員として行動できる（思考・判断）
- ④人間や文化について関心を持ち、自らの力で課題を設定し探求する意欲を持つ（関心・意欲）
- ⑤現代社会が抱える問題に対し、大学で学んだことをもとに解決しようとする態度を持つ（態度）
- ⑥自分の調査・研究の結果を、口頭あるいは文章や制作物の形で表現することができる（技能・表現）

2010 年度より、文学部の 15 専攻・プログラム及び「教養科目・外国語科目・人文総合講座」の主要科目について上記「6 項目の教育研究上の目的」に従い、カリキュラムマップを作成して同じく HP 上で公開している<sup>2)</sup>。

「人材育成目的」及び「教育研究上の目的」は、HP の他にも履修要項に記載し、入学時のガイダンスなどで学生に告知しているが、残念ながら、学生に周知されているとは言い難い状況であり<sup>3)</sup>、改善が求められるところである。今後、リテラシー入門など初年次教育においてとりあげるなどの教学上の工夫が必要である。

## 二 教育課程の編成方針

近年、学生の高等教育機関における教育の質保証の課題が国際的規模で進んでいる。こうした状況下において、「学士課程教育の質保証」、「大学院教育の実質化」の取り組みの一環として、全国の高等教育機関において、学部・研究科の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の「教学上の 3 つのポリシー」の明確化とその公開が進められており、また、大学基準協会における新たな認証評価システムにおいても、これらの「3 つのポリシー」が適切に設定され、これに基づいた教学が展開されることが要求されている<sup>4)</sup>。そうした学外状況を受けて、本学では、学部・研究科における教学上のポリシー策定・公開の取り組みが推進された<sup>5)</sup>。

文学部においてもこの課題に積極的に取り組み、その過程で以下の 3 ポリシーを 2010 年に定めた<sup>6)</sup>。

### 1. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人文学の分野・良識に対して深い関心と意欲を持ち、幅広い知識と豊かな表現力を身につけて人間と社会が抱える諸問題を追求・解決しようとする学生を求めています。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部は、学部の人材育成目的達成のため、「教養科目群」「外国語科目群」「専門科目群」「自由選択科目群」の4科目群を配置し、系統的履修を促しています。

### ①「教養科目群」

人生を生きていく上での指針となる知性と知恵、価値観の獲得のために設置された科目群です。「思想と文化」「現代と文化」「社会と経済」「世界の史的構成」「自然・科学と人間」「数理と情報」「大学で学ぶ」の7分野からなる「総合学術科目A群」と、「スポーツ方法実習」「リテラシー入門」などの「総合科目B群」からなっています。

### ②「外国語科目群」

認識力・思考力を豊かにする人間形成に必要な不可欠な教養として、また真の国際理解を得るために設置された科目群です。「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「イタリア語」からなる「第1外国語」と、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「朝鮮語」「イタリア語」からなる「第2外国語」から構成されています。

### ③「専門科目群」

自らの所属する専攻・プログラムの専門的履修が行えるよう設置された科目群です。総合的・学際的な知を追究するための「人文科学総合講座」（イノベーション副専攻、エリアスタディ副専攻を含む）と、以下の専攻・プログラム別の「専門科目」からなっています。

哲学専攻 教育人間学専攻 日本文学専攻 中国文学専攻 英米文学専攻 日本史学専攻 東洋史学専攻 西洋史学専攻 地理学専攻 心理学専攻 国際プログラム 学際プログラム 言語コミュニケーションプログラム 京都学プログラム

専攻・プログラム別の「専門科目」は、「研究入門」「基礎講読」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」を基幹科目として、他に「概論」「講読」「特殊講義」などから編成されています。

### ④「自由選択科目群」

人文科学・外国語はもとより社会科学・自然科学・社会実践などを幅広く修得・経験することで、専門性を広い視点から高めていくために設置された科目群です。「全学副専攻科目（16単位まで）」「他学部受講科目」「選択外国語科目」「キャリア形成科目」「全学インターンシップ」などのほか、規定単位以上の「教養科目」「専門科目」の単位も編入されます。

※「自由選択科目群」は2012年度より廃止予定

## 3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部は「人文学を教育研究し、人間や世界の様々な文化について、幅広い知識と豊かな表現力を身につけ、人間と社会が抱える問題を究明し解決しようとする人間を育成すること」を目的とし、前述の6点の卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を定めます。これらの能力の獲得と学部カリキュラムに規定する所定単位（教養科目24単位以上、第1外国語8単位以上、第2外国語6単位以上、専門科目70単位以上、合計124単位以上）の修得をもって、人材の達成とみなし、学士課程学位を授与します。

カリキュラム・ポリシーについては、『履修要項』と『教学の手引き』を作成し学生に対する学びの導入を図っている。具体的には、2008 年度より『履修要項』に、「文学部における学びの流れ」を掲載している。これは、文学部全体の学びを俯瞰するものである。また、専攻・プログラムごとに編集した『教学の手引き』には、主要専門科目を含む4年間の「履修の仕方」や「履修モデル」・「科目概要」などを掲載している。

### 三 授業の運営方針

文学部は、卒業論文もしくはそれに代わる成果物を提出することを卒業の必須要件とする学部である。情報収集・分析・論理の組み立て・プレゼンテーション・論考の作成を一貫した作業として修得し、学生各自のオリジナルな見解を発見し、それを論理的に第三者に説明・説得できる表現力を達成させるのが、カリキュラムの目的である。そのために、1 回生から4 回生まで一貫して小集団ゼミ講義を導入している。

1 回生…研究入門に加えてリテラシー入門（35 名規模）

2 回生…基礎講読（35 名規模）

3・4 回生…演習Ⅰ・Ⅱ（25 名規模、調査実習及び情報処理演習専攻は20 名規模）

これらの小集団教育のうち特に初年次教育を重視している。具体的には、リテラシー入門において、1 回生時に基礎的なライティング能力を身につける為に2009 年度から共通の教科書『人文学のリテラシー』を作成した。ライティングの他、情報スキルとしてエクセル・パワーポイントなども取り入れ、レポート作成に必須な能力を養成している。リテラシー入門に対して独自のアンケート調査を実施し、各項目<sup>7)</sup>の満足度は5段階評価で3.33～3.85の結果を得ており、概ね良好な教育効果を挙げてきた。また、2 回生向けの「アカデミック・ライティング」を開講し、リテラシー入門と接続し文章作成能力の継続的発展を図っている。

上記のゼミでは、基本的に学生と教員との間の双方向のコミュニケーションを醸成し、後に示すように優れた教育効果を上げている。また、小集団以外の講義においても、コミュニケーション・ペーパーや小テストなどを利用し、双方向の授業を実践している教員が多い。ゼミ以外の専門科目についても、コア科目を明確化し、2008 年度からは、講義系コア科目にTAを配置し、文学部のHP上で試験講評を公開している。

ゼミ等の小集団教育の効果について、2007 年度に実施している卒業生向けのアンケートでは、「大学生活の中で満足度の高かったものを下の【選択肢】から3つを選び、満足度の高い順に①から記入してください。」との設問に対して、1位：サークル活動・2位：ゼミ・3位：友人との交流との結果を得た。また、「大学生活で、一番伸びたと感じる力は何ですか」との設問に対して、1位：考え抜く力・2位：社会性であった。さらに「伸びたと感じた力は何によってついたと感じますか」の設問に対して1位：ゼミ・2位：サークル活動・3位：アルバイトの結果を得た。また、2010 年度卒業生を対象にした「学生の学びの実態調査」においても、「大学生活で、一番伸びたと感じる力」について、「考え抜く力」を選択した学生が特に多く、それが何によってついたかとの設問に対して「ゼミ」との回答が最多であった。さらに、「大学生活の中で満足度の高かったもの」との設問に対して1位：友人との交流・2位：ゼミ・3位：サークル活動との結

果が出た。学生が小集団教育についてそれなりの意義を感じているのが判明し、文学部が一貫して取り組んできた小集団授業の有効性を示すものである。

#### 四 学生の卒業後に期待される活動分野

以下は各専攻・プログラムがHPで想定している進路である。

〈哲学〉<sup>8)</sup>

深い思考力、ユニークな発想、豊かな人間性を活かして、広く民間企業、公務員、教員、研究者などへの道が考えられます。

〈教育人間学〉<sup>9)</sup>

小学校・中学校・高等学校教員、対人援助組織、マスコミや民間企業、公務員、NGO・NPO、大学院進学などが考えられます。

〈日本文学〉<sup>10)</sup>

日本文学や文化に関する豊かな教養を活かし、国語の教員や国家公務員・地方公務員、民間企業、文学（図書）館（学芸員・司書）などでの活躍が考えられます。

〈中国文学〉<sup>11)</sup>

民間企業（貿易・マスコミ・旅行・金融・百貨店）、中学校・高等学校教員（国語）、国家・地方公務員などが考えられます。

〈英米文学〉<sup>12)</sup>

教員、翻訳家、民間企業（マスコミ・旅行業・航空関係・金融・サービス業等）、海外の大学への進学などが考えられます。

〈日本史〉<sup>13)</sup>

小学校・中学校・高等学校教員、大学教員や博物館の学芸員、発掘調査員などの専門職のほか、公務員や民間企業でも多くの卒業生が活躍しています。

〈西洋史〉<sup>14)</sup>

卒業生は民間企業、国家公務員・地方公務員、小学校・中学校・高等学校教員として活躍しています。大学院進学に挑む学生も多数います。

〈東洋史〉<sup>15)</sup>

民間企業のほか、国家公務員・地方公務員、マスコミ、教員など、また大学院に進学してさらなる研究活動への挑戦が考えられます。

〈地理学〉<sup>16)</sup>

地域計画に関わる専門職や教員・公務員への道が開かれています。さらに観光・旅行業、出版・報道分野などの進路が考えられます。

〈心理学〉<sup>17)</sup>

民間企業のほか、公務員（心理職）、教員など。また大学院に進学して、研究活動や心理専門職への挑戦が考えられます。

〈学際プログラム〉<sup>18)</sup>

研究者、教員、学芸員等の研究教育職、各種国際機関や交流事業職、マスコミ関係、企業の各分野での専門職などが考えられます。

〈国際プログラム〉<sup>19)</sup>

教員、マスコミといった専門性と総合性を求められる分野、国際協力機関、NGO・NPO、外資系民間企業などが考えられます。

〈京都学プログラム〉<sup>20)</sup>

民間企業（観光・旅行・マスコミ）、学芸員、公務員、地域活性化・地域連携に関わる営利・非営利団体スタッフ、教員（中学校社会科・高等学校地理歴史科・高等学校公民科・中学校国語科・高等学校国語科）、大学院への進学が考えられます。

〈言語コミュニケーションプログラム〉<sup>21)</sup>

民間企業（観光・旅行・マスコミ）、学芸員、公務員、地域活性化・地域連携に関わる営利・非営利団体スタッフ、教員（中学校社会科・高等学校地理歴史科・高等学校公民科・中学校国語科・高等学校国語科）、大学院への進学が考えられます。

以上の想定される就職・進路に共通するのは、教員・公務員・大学院進学であるが、専攻によっては、たとえば地理学専攻の観光業界、国際プログラムの国際機関など専門領域を生かした専門職も見受けられる。

また、進路・就職を開拓する上で重要な要素が資格である。現在、文学部には以下の取得可能な資格がある。

(1) 教員免許

社会・地理歴史・公民・国語の免許状取得が可能、英米文学専攻・総合、学際、国際、言語コミュニケーションプログラムは、加えて英語免許状が取得可能、他の専攻は許可者（人数制限有り）のみ英語免許状取得可能。

(2) 学芸員資格

全専攻の学生が取得可能。

(3) 図書館司書・学校図書館司書教諭

2011年度まで、両資格を取得する為の最低限必要な科目である(図)図書館学総論や(図)学校経営と学校図書館などを開講する形で学生の要望に応じて来た。2012年度より日本文学研究学域に日本文化情報学専攻を設置し、これらの資格に必要な科目を専門とする専攻を置くことで文学部学生の司書に対する意欲に応え、進路を開拓する予定である。

また、このプログラムを土台にいずれは全学に図書館司書課程を開き、本学の学生の進路の多様性を広げることを目指している<sup>22)</sup>。

なお、個別専攻特有の資格として、地理学専攻の測量士補・GIS学術士・地域調査士、心理学専攻の認定心理士などがある。

次に、文学部では、キャリア教育として、1回生次から以下の取り組みを行っている。

- ・「学部の学びと将来・進路セミナー」(オリエンテーション)
- ・「リテラシー入門」での上回生の講演(正課講義1回生配当科目)
- ・「キャリア発達論」(正課講義1回生以上配当科目)

学生を社会に送り出す大学の役割として、進路・就職支援は教学と一体のものであるという立場から、正課授業内外での学生の自己実現に向けたキャリア形成支援を推進している。入学当初のオリエンテーション期間においては、文学部校友会の支援の下、OB・OGを招いて文学部での「学び」と広義での「キャリア」のあり方について、学生に考えさせる機会を設けている。「キャリア発達論」では、文学部教員がリレー形式で自身の青年期から成人期にかけてのエピソードを紹介し、受講生のより良いキャリア形成(大学生活、進路選択のあり方や生き方)について考えるよう指導している。

進路就職に関する取り組みとしては、次の取り組みや正課授業でのキャリア教育を行っている。

- ・3回生向け:「文学部就活応援 WEEK」(事務室イベント)
- ・2回生向け:イノベーション副専攻の各コース  
「キャリア発達論」(正課講義1回生以上配当科目)
- ・3回生向け:テーマリサーチ型ゼミナール

イノベーション副専攻「ツーリズムコース」の受講生では、2009・2010年度卒業生の旅行業・観光業への進出率(23.6%)が、文学部全体(2.3%)を大きく超える結果となっている。同じく「デジタル人文学コース」の受講生では、民間企業へ就職した学生の約30%がIT分野へ就職している。また、テーマリサーチ型ゼミナール受講生の進路・就職決定率は、文学部平均を上回り、民間企業への就職率は、専攻ゼミ受講生を10ポイント上回っている。

就職以外の進路として大学院進学が挙げられる。最近4年間の進学実績は以下の通りである(他大学への進学も含む)。

文学部過年度大学院進学者

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
大学院進学者数 (単位:人)	120	127	124	104
卒業生にしめる 割合(単位%)	11.7	11.8	10.5	9.7

なお、文学部では、2007 年度から大学院進学プログラムを設け、4 年生時から大学院科目を受講できる制度を導入しており、内部進学への導入を図っている。

## 五 将来計画の構想

### (1) 学域改革

文学部は、2012 年の学部改革において「学域」という教学区分を設け、現行の 15 専攻・プログラムから、8 学域 18 専攻に改編し、日本文化情報学専攻、考古学・文化遺産専攻、現代東アジア言語・文化専攻、地域観光学専攻といった専攻を新設する。学域・専攻制度は、これまで推進してきた文学部の教学の学際化・総合化・国際化を発展させ、あわせて人文総合科学インスティテュートの理念を継承するものである。「学域」は、複数の「専攻」によって構成され、高校からの学びを大学につなぐ基礎力やリテラシーを身につけ、さまざまな人文学を融合して学ぶことができる〈場〉として設けられたものである。学域の導入効果は次項で述べる初年次教育において、もっとも発揮されることになる。

### (2) 初年次教育の充実

学域・専攻制度では、特に新生の大学生活への移行を円滑に進める観点から、初年次教育に力を入れる予定である。学生が自身の適性を選択するのに相応しい初年次教育として、従来のインフォメーションスキル、ライティングスキルおよびキャリアスキルに加え、自己管理や学習習慣といったスチューデントスキルを導入する予定である。それら 4 つのスキルを涵養する授業は、これまで半期であった授業を通年化した「リテラシー入門」で行う。リテラシー入門の授業は一部を除いて小集団教育となる。一方、初年次専門科目の「研究入門」はすべて小集団教育で、アカデミックスキルの涵養にあてる予定である。また、来年度から 1 クラス 30 名計算とし、35 名を超えた場合クラスを分割し、小集団教育の充実を図る。

### (3) 学部教学の更なる国際化への推進

学部の国際化を牽引する専攻として、コミュニケーション学域に「国際コミュニケーション専攻」を設置する。国際コミュニケーション専攻は国際インスティテュート（文学部においては国際プログラム）の後継展開という性格もあり、英語科目成績上位層向けの充実した英語教育を実施する。そのほか、外国語科目の体系的かつ系統履修のために、英語 I～VIII と初修外国語（基礎・表現・展開・応用）に続いて回生が上がってもシームレスに履修できる「専門外国語」を新設する。

また新たに国際文化学域を設置する。当学域の学生は、英米文学専攻、西洋史学専攻、文化芸術専攻を選択する。そのほか東洋研究学域は激動する東アジア情勢を見据えた国際的な学域であり、学生は中国文学専攻、東洋史学専攻、現代東アジア言語・文化専攻を選択する。そのほかの学域もそれぞれ独自に国際化を推進する予定である。



## 注

- 1) 立命館大学 HP 文学部、学部紹介、人材育成目的と3方針 [http://www.ritsumeijp/lt/untitled\\_001.html](http://www.ritsumeijp/lt/untitled_001.html)  
2012/01/29
- 2) 同上。
- 3) 「学生の学びの実態調査」における教育目標の認知度は、2011年度新4回生で9%、2010年度卒業生で15%であった。
- 4) 2010年4月26日教学対策会議議決資料。
- 5) 同上。
- 6) 注1) 参照。
- 7) 2010年7月実施のアンケート項目は以下の通り。

① 4～5月の4回の「文章書き方講座」は、論理的な文章の基礎を学ぶ内容でしたが、皆さんがこの授業の作文課題や他の授業のレポートを書く上で役に立ちましたか？
② テキスト『人文学のリテラシー』の「文章書き方講座」に関する部分は、皆さんがこの授業の作文課題や他の授業のレポートを書く上で役に立ちましたか？
③ 作文に関する文章を読んで書く「ライティング課題その1」の作業と、TA・先生からの添削・講評によって、自分の作文の力は向上したと思いますか？
④ 異文化体験に関する「ライティング課題その2」に取り組む作文をする作業と、TA・先生からの添削・講評によって、自分の作文の力は向上したと思いますか？
⑤ 4月の初め2回の「情報リテラシー授業」は、大学の基本的な情報環境に関する内容でしたが、皆さんが大学生活を開始する上で役に立ちましたか？
⑥ Microsoft Word に関する情報リテラシー授業は、文学部でのレポート作成に特化した内容で設計したのですが、皆さんがさまざまな授業のレポートを作成する上で役に立ったと思いますか？
⑦ Microsoft Excel に関する情報リテラシー授業は、数値やデータの処理という現代社会に不可欠なスキルを身につけることを目的にしていますが、そのような（初歩的な）スキルが身についたと思いますか？
⑧ Microsoft PowerPoint に関する情報リテラシー授業は、口頭発表やプレゼンに不可欠なツールの紹介を目的にしていますが、これから PowerPoint を使う上で役に立ったと思いますか？
⑨ 図書館やコンピュータを使った調べ物に関する情報リテラシー授業は、皆さんのリサーチ能力の向上を目的にしていますが、これによって図書館やデータベースを身近に使えるようになったと思いますか？
⑩ 先輩の体験談を聞いて考えるキャリア形成支援授業は、皆さんがこれからの大学生活を考える上で役に立ちましたか？
⑪ 自分達で大学生活について議論するキャリア形成支援授業のグループワークは、皆さんがこれからの大学生活を考える上で役に立ちましたか？

- 8) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、哲学専攻 [http://www.ritsumeijp/lt/lt02\\_01\\_j.html](http://www.ritsumeijp/lt/lt02_01_j.html)  
2012年1月29日
- 9) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、教育人間学専攻 [http://www.ritsumeijp/lt/lt02\\_02\\_j.html](http://www.ritsumeijp/lt/lt02_02_j.html)  
2012年1月29日
- 10) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、日本文学専攻 [http://www.ritsumeijp/lt/lt02\\_03\\_j.html](http://www.ritsumeijp/lt/lt02_03_j.html)  
2012年1月29日
- 11) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、中国文学専攻 [http://www.ritsumeijp/lt/lt02\\_04\\_j.html](http://www.ritsumeijp/lt/lt02_04_j.html)  
2012年1月29日
- 12) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、英米文学専攻 [http://www.ritsumeijp/lt/lt02\\_05\\_j.html](http://www.ritsumeijp/lt/lt02_05_j.html)  
2012年1月29日

- 13) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、日本史学専攻 [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_06\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_06_j.html)  
2012 年 1 月 29 日
- 14) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、西洋史学専攻 [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_07\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_07_j.html)  
2012 年 1 月 29 日
- 15) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、東洋史学専攻 [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_08\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_08_j.html)  
2012 年 1 月 29 日
- 16) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、地理学専攻 [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_09\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_09_j.html)  
2012 年 1 月 29 日
- 17) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、心理学専攻 [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_10\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_10_j.html)  
2012 年 1 月 29 日
- 18) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、学際プログラム [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_11\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_11_j.html)  
2012 年 1 月 29 日
- 19) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、国際プログラム [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_13\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_13_j.html)  
2012 年 1 月 29 日
- 20) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、京都学プログラム [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_14j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_14j.html) 2012 年 1 月 29 日
- 21) 立命館大学 HP 文学部、専攻・プログラム紹介、言語コミュニケーションプログラム [http://www.ritsumei.jp/lt/lt02\\_15j.html](http://www.ritsumei.jp/lt/lt02_15j.html) 2012 年 1 月 29 日
- 22) さらに日本文化情報学専攻教員を中心に本学図書館のラーニング・コモンズ化に協力する体制を模索している。文学部が全学の新図書館構想に寄与できる機会と捉えている。

## The Present of the Education of College of Letters, Ritsumeikan University

— An educational target, organization and a policy of operation, a course, and a future design —

MATSUMOTO Yasunobu (Professor, College of Letters, Ritsumeikan University)